

福島市市民活動サポートセンター



ふくサポの
広報大使
サボわんでーす

ふくサポ通信

2020年晩秋号
vol.93



にゃんこ隊長です

<http://www.f-ssc.jp>

にゃんこ隊長が行く!

福島県福祉サービス振興会 ～誰もが安心して暮せる少子高齢社会をめざして～



です。」と会長の濱田さん。

平成16年にNPO法人として「福島県シルバーサービス振興会」を設立し、平成29年には高齢者のみならず障がい児者の心身の健康の維持、自立の推進等、時代の要請に対応した事業を展開するために、名称を「福島県福祉サービス振興会」と変更しました。

事業内容としては福島県の指定を受け、介護老人福祉施設や保育所等の指定評価機関としての第三者評価や、認知症高齢者グループホームの評価・調査を行う外部評価機関として県内85カ所を超える評価・調査を行っています。介護職員の研修事業についても職員の資質向上を図り社会的評価を高めるため、現場で役立つ実務研修に力を入れており、年間を通して昨年度までは1,500名の職員が受講しています。

施設の評価結果や情報等はホームページから閲覧できるようになっており各施設の事業内容等を理解し施設を選ぶ際の参考にすることができます。

介護・福祉のこれからの課題としては、深刻な介護人材不足があげられます。濱田さんは「今でも介護業務に対しては特に若者には3Kというネガティブなイメージがあります。そのイメージを払拭し社会に役立つ仕事の一つであることを認識してもらう必要があります。そのため、介護現場にAIやITを積極的に導入し業務の効率化や省力化を図り、人生の先輩である利用者の方たちとの会話やふれあいの機会を増やすことが必要です。外国人介護実習生の受け入れも行われています。日本語による介護記録が苦手な外国人の事務負担の軽減のためにもIT化が必要、実現化するには現場の職員の意識改革も重要です。」と話しています。

少子高齢化社会の深刻化や介護・福祉現場に対する質の向上と人材育成等の課題を真摯に取り組んでいる姿勢がとても印象的でした。



【会長の濱田さん】

「お問い合わせ先」

住所： 960-8253 福島市泉字堀ノ内15番地の3
TEL： 024-563-1201

「福島県福祉サービス振興会」は、介護が必要になっても地域や施設の中で自分らしく生活できるように介護サービスの質の向上を図るため、介護職員の研修や事業所の評価・調査等を行っている団体です。「特に介護・福祉サービスを利用される方が満足できるようなサービスの提供と併せて介護を担う職員の社会的評価を高めることが必要



【介護職員の研修の様子】



「チーム術で乗り切ろう！！NPOの働き方改革」

2018年に「働き方改革関連法」が成立しました。この法律は1つの法律ではなく、労働基準法、労働安全衛生法、労働契約法など改正内容も多岐にわたるものですが、なかなかNPO活動をされている方が実施するのは、難しいものもあります。今回は参考書籍をもとに取り入れやすいチーム術をご紹介します。

Q1 「日常業務が忙しいのに、何か新しいことを始めるのは無理！！」と感じる方も多いはずで
す。可能なののでしょうか？

answer

慢性的に忙しいのは、構造的に問題があることが多いようです。チーム改革には時間と手間がかかります。提案者の危機感、情熱をチームに伝え、チームで取り組む必要があります。

Q2 ガンガン仕事をして、早く一人前になりたい。というスタッフに早く帰ってもらうためにはどうしたらよいのでしょうか？

answer

NPOにも、若いスタッフの方が新卒で入職される今、「一人前」とは何かを考えて頂くと良いようです。業務には定型化・パターン化されたものがありますが、その際も臨機応変を要求される場合があります。状況の変化に柔軟に対応し、現状を把握することから、視野を広げ、アイデアや創造性を発揮し、多様な経験を積んでいただく方が大切！ということを理解してもらうことが、重要なようです。

Q3 連絡に時間がかかりますがどうすればよいですか？

answer

業務に報告・連絡はかせません。チームで業務が見える化することで、サポートできる体制や重複業務を防ぐ意味もあります。



Q4 仕事のできる人が仕事を多く持つ形になることが多いと思いますが、どうでしょうか？

answer

できるスタッフにとっても、業務の負担が過重になれば、肉体的・精神的なトラブルにつながりやすくなります。将来的に考えれば、団体としても不安であり、人も育ちにくくなります。

Q5 残業を減らそうと家に持ち帰ることがあります。

answer

残業を減らすことは目的ではなく、仕事の効率化を図ることです。見直すきっかけにしましょう！

参考図書：「漫画でやさしくわかる6時に帰るチーム術」

※上記の他にも参考になる事例が色々と掲載されています。ふくサポでも貸出しております。



「休眠預金を活用した資金助成情報」

一般財団法人ふくしま百年基金では、休眠預金を活用した「新型コロナウイルス対応緊急助成」が始まりました。

この助成金に応募したNPO等の市民団体の申請事業のうち7件への採択が10月初旬に決定し、約1年にわたり支援をされます。

また、今後「被災者の心の健康とコミュニティを守る事業に対する助成～震災関連死をこれ以上増やさないために～」を予定しているとのこと。



SNSを活用した講座を開催しました

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため外出自粛の日々が続いている中、多くの人がSNSに費やす時間が増えているようです。ある企業の調査によりますと、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴うSNS利用実態調査」では、4割近くの方がSNSの利用時間が増えたと回答しています。ふくサポでもそうした実態を踏まえ、SNSを学ぶ講座を開催しました。ビデオ・Web会議ができるzoomの利用の仕方や情報発信や広報などに特化したスマートフォンの利用の仕方などを学びました。

SNS活用講座

8月28日(金) 講師：合同会社 のりぷろ

NPOや市民活動団体においては、コロナ禍で活動自粛のなか、其々の団体が如何に活動を続けていくか、また、受益者に周知してもらうための手段としてSNSを有効に活用していただきたく開催しました。参加者は「トラブル対応、活用方法について知れて役に立った」「HPやブログなど複数メディアでの発信の必要性を感じた」「ZOOMについてもっと知りたい」など、積極的に学んでいました。



【Googleマップで観光地を散策】

参加者はスマートフォンの基本的な操作からラインやフェイスブックなどの使い方まで学びました。「基本的な使い方がわかった」「自分のスマホで聞きたかったことがわかった」など、日頃から抱いていた疑問点などを解決すると共に、市民活動や趣味の幅を広げるのに役立ったようでした。

活動が楽しくなるスマートフォン講座

9月10日(木) 協力：ソフトバンク株式会社

☆ふかちゃんのつぶやき☆

「スローダウン」

「新しい生活様式」って何だろう。私たちは、コロナ禍で何を学んだのだろうか？

「人間は社会的動物である」。私たちは、ここ数か月の三密防止の生活で、人と自由に会えない辛さを味わい、人を恋しいと思った。私たちは公園に行き、川辺に行き、自然や音楽に癒しを求めた。コロナ禍は、私たちに、「本当に大事なモノは何か！」を問うてきたのだ。「競争に負けたら、豊かさが消える」。これまで私たちは、お金をモノサシにして一生懸命に生きてきた。豊かに生きるために経済を最優先にしてきた。でも、人間らしく生きるには、お金や効率以外にも大切なモノサシがあることを、今回、改めて私たちは認識した。それは、「経済とは違う価値観」の「幸せ」だ。

人類は、経済発展のために自然を破壊し、快樂と欲望を満たし続けてきた。その結果、新たなウイルスに出会い、グローバル化による地球規模の急速な感染拡大を招いた。

コロナ禍は訴える。これ以上地球を破壊したら、人類そのものが破壊されることになる。

コロナ禍は訴える。過剰消費による急速な経済成長が、人類の幸せを生むのでは無いと。

コロナ禍が教えようとしている。「自然からの略奪をもうやめろ！」そして「経済の勝ち負けを競わずに、もっと、ゆっくりしたペースで生きろ！」と。

私は、やっぱり「三密の生活」が欲しい。人類は「社会動物」。一人で生きられず、仲間を求め、異種にも信頼を示し、利他に喜びを感じ、皆で歌や踊りを楽しむ。人間は「社会で育つ」。いじめ・引きこもり・自死・・・幼児時期からのコミュニティー不足が、成人してからも様々な問題を引き起こしている。人間はどこまでも「社会」を必要とする。だから「新しい生活様式」とは、「三密を避ける生活」ではなく、「三密でも大丈夫な社会」に私たちの根本的な行動を変えることなのかもしれない。きっと、欲望の経済を調整することで自然と共存し、「人の心が繋がる生活」にしていくことだと、私は思いたい。



～ふくサポ おすすめの逸品～

～Part4～

今回は阿武隈川沿いにあり、美しい風景が楽しめる「おぐら茶屋」の逸品をお伝えします。おぐら茶屋では手作りの品々が味わえます。なかでも名物となっているのは、だし巻き玉子（180円）です。北海道の利尻昆布から取っただしを使い、他にはない優しい味と評判になっています。また、日替わりのお弁当（平日450円、休日550円）も人気で、毎日違ったメニューを味わうことができます。これから寒くなってくる季節は、甘酒（250円）もいいですね。こちらも手作りで、添加物・保存料も使わず、こだわっています。お客さんからは「どこか違う味わいでおいしい」との声もあがっています。目の前に広がるきれいな風景を見ながら、甘酒を飲んでのんびりしてみたいはいかがでしょうか。



【人気の日替わりお弁当】



甘酒

また、季節ごとのイベントでのメニューもあり、10月は旬の鮭を使った「あぶくま鍋」が大人気でした。その他にも、正月はお雑煮、夏はしそジュースなど、季節によって様々な味が一年中楽しめます。お客さんを楽しませようとするお店の工夫が感じられますね。

おぐら茶屋は、「NPO法人御倉町かいわいまちづくり協議会」が運営しています。代表の蓮沼さんは、「景観の良い、癒しの雰囲気がある場所です。

コーヒー、お茶一杯だけでも飲んでゆっくりしてってください。」とのこと。元気なおかみさんが提供するおいしいメニューを味わいながら、福島の四季の景色を楽しんでみてはいかがでしょうか。



【あぶくま鍋で心も体もポカポカに！】



【最高のロケーションに癒されます】

～おぐら茶屋～

住所：福島県福島市御倉町 1-78

TEL：024-522-2390

営業時間 11:00～16:00 定休日：火曜日

編集後記

- ・ Go toで紅葉のスカイラインが混雑！ 心が整理できない私です。（ふかちゃん）
- ・ 紅葉が美しい季節。身近な小さな秋の発見が楽しいです。（マータン）
- ・ 暑い暑いと思ってたら、アートの間に木枯らしが！ 体調にご注意を！！（みー）
- ・ 今年の冬は雪が多そうな予感、冬タイヤへの交換はお早めに！（ヒロ）
- ・ コロナだけではなく、インフルエンザの対策もしっかりと心がけていきたいです（＃）
- ・ いつの間にか3カ所も虫歯になってしまいました。定期検診が大切ですね。（K）

福島市市民活動サポートセンター「ふくサポ通信」2020年晩秋号 vol.93

発行日／2020年 10月31日 編集／認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター
 発行／福島市市民活動サポートセンター 〒960-8041 福島市大町4-15 チェンバおおまち3階
 TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560 URL <http://www.f-ssc.jp> MAIL f-ssc@bz01.plala.or.jp

ふくサポ通信 イベント情報 2020.11-12月

SmileCafe

イベント情報!

※イベント情報につきましては、新型コロナウイルスの状況により、変更・中止になる場合がありますので、詳細は直接主催団体にご確認いただけますようお願いいたします。

11/7 土 **講演**
不登校体験の話を聴く会

現在悩みを抱えている親御さんや、不登校のお子さんに係わりのある方など、この機会に話を聞いてみませんか? 講演後、個別相談会も有ります。

- 会場/コラッセふくしま3F 企画展示室
- 時間/13:00~15:10
- 入場料/1,000円(会員500円)
- 主催/特定非営利活動法人ビーンズふくしま
- 問合せ/TEL 024-563-6255

11/21 土 **てつがくカフェ@ふくしま**
「責任とは何か?」

「哲学カフェ」とは、街中カフェなど誰もが自由に出入りできる場所で、飲み物を片手に参加者同士で特定のテーマについて話し合う集いの場です。11月は標記のテーマとなります。

- 会場/福島市市民活動サポートセンター
- 時間/16:00~18:00
- 参加費/無料
- 主催/てつがくカフェ@ふくしま
- 問合せ/TEL 090-5995-1466 (石井)

万葉集講座 講師: 金澤 武男氏

11/28 土 **第3回**
軽皇子の狩りを詠んだ柿本人麻呂の歌
(第2期の歌)

12/26 土 **第4回**
長歌から短歌へ、山部赤人の歌
(第3期の歌)

- 会場/福島市市民活動サポートセンター
- 時間/14:00~15:30
- 入場料/500円(資料代として)
- 主催/ふくしま成年後見センター
- 問合せ/TEL 024-535-5451

12/1 火 **路線バス電車で行く**
観光健康ウォーク
安楽寺、東禅寺、大福寺、
塩釜神社巡り

安楽寺の大生松、東禅寺のアカマツ、茅葺の鯉返り観音堂がある大福寺、万成大路が一望できる塩釜神社を訪ねます。

- 会場/福島駅西口バス停前集合
- 時間/7:45~14:50
- 参加費/600円(保険料、資料含む)、交通費
- 主催/福島ツーリズムの会
- 問合せ/TEL 090-5593-6182 (川崎)

ふくしま市民活動フェスティバル2020開催

前号でご案内した通り新型コロナウイルス感染防止の観点から、開催にあたり検討を重ねました結果、今出来る内容に絞り、感染防止に努めながら、開催する運びとなりました。

お問合せ、お申込みは下記連絡先までお願いいたします。

開催内容

日程: 11月4日(水)~11月15日(日)

場所: 福島市まちなか交流施設「ふくふる」&福島市市民活動サポートセンター「ふくサポ」

内容: 活動紹介(パネル展示)・相談会・体験教室・販売・その他

参加費: 一口 300円(一口以上)

お問合せ: 福島市市民活動フェスティバル2020実行委員会事務局 ☎ 024-526-4533



助成金・活動支援情報



子どもゆめ基金（1次募集）

未来を担う夢を持った子どもの健全育成を進めるため、民間団体が実施する自然の中でのキャンプや科学実験教室などの体験活動、絵本の読み聞かせ会などの読書活動などの支援

- 対 象／①子どもの体験活動 ②子ども読書活動 ③子ども向け教材開発・普及活動
- 助成金額／市区町村規模：標準50万円（上限100万円）、都道府県規模：標準100万円（上限200万円）
全国規模：標準300万円（上限600万円）③標準500万円（上限1,000万円）
- 応募期間／11月10日（火）：郵送 消印有効 11月24日（火）：電子申請 17時締切り
③は電子申請のみの受付 11月4日（水）：17時締切り
- お問い合わせ／独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部助成課 ☎ 0120-579-081

福島市・伊達市限定

第8回 ふくしん こども応援賞

地域の子どもたちを応援する個人・団体を支援

- 対 象／①文化活動：子どもたちに参加及び鑑賞機会を提供する活動・地域に根差した伝統文化と新たな地域文化の創造の為、継続して育成する活動・子どもたちの健全育成を図る活動
②スポーツ活動：子どもたちに広く参加機会を与える活動・子どもたちの交流と観光増進を目的としたスポーツ活動、継続して育成する活動・子どもたちの健全育成を図るための活動
- 助成金額／5万円～20万円 10件程度
- 応募期間／11月13日（金） 消印有効
- お問い合わせ／福島信用金庫 総合企画部地域活性化支援課 こども応援賞事務局 ☎ 024-523-3570

セブン・イレブン記念財団 環境市民活動助成・NPO 基盤強化助成

お客様がセブンイレブンの店頭募金を通して、地域の環境市民活動を支援する助成
地域市民が地域の環境問題を主体的に解決するために様々な角度から支援する

- 対 象／①自然環境の保護保全 ②野生動植物の保護補保全 ③総合環境学習
④暮らしの中のエコ活動（掲載は11月16日締切り分の対象分野とする）
- 助成金額／上記対象分野の【活動助成】：上限100万円（任意団体は増額可）、
【NPO基盤強化助成】：上限400万円（原則3年間1,200万円継続助成）
- 応募締切／2020年 11月16日（月）当日消印有効
- お問い合わせ／（一財）セブンイレブン記念財団
☎：03-6238-3872 Fax：03-3261-2513

エクセレントNPO大賞

質の向上を旨とし、自己評価を行いながら改善に努める非営利組織を応援し、その活動が社会に「見える化」することを目的とする

- 対 象／国内外における社会貢献を目的とした日本国内のNPOや民間非営利組織
- 助成金額／大賞：50万円、市民賞・課題解決力賞・組織力賞：30万円
コロナ対策チャレンジ賞：10万円（2020年度のみの特賞）
- 応募締切／2020年 12月11日（金）必着（メール）
- お問い合わせ／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議事務局
☎：03-3527-3972 Fax：03-6810-8729 E-mail: enpo@genron-npo.net